

2024 年度(令和 6 年度)社会福祉法人慈久福祉会 事業報告

1. 利用者ニーズに応じた組織体制で安定した事業運営に取り組む

<各事業の定員に対する稼働状況>

事業	稼働率	特記事項
施設入所支援	91.1%	3 月末契約者数 55 人(新規入所 3 人、退所 3 人)
生活介護(慈)	95.3%	通所生活介護の 1 日当たりの平均利用者 2.5 人
短期入所	74.4%	緊急受入 3 人(台風接近 2 人、家族事情 1 人)
生活介護(や)	90.6%	1 日当たりの平均利用者は 15.4 人
放課後等デイ	90.3%	1 日当たりの平均利用児は 9.0 人

利用者支援のニーズに応じた組織体制として、慈久園では利用者支援にかかる係を生活支援課に集約し、各係の総力での支援を目指したが、組織枠の大きさが生かされず情報共有の面で課題が残った。2 ゾーン体制も同様であり見直しを図ることとなった。ホープ部門では、計画相談支援と基幹相談支援センターの役割を分けたことで相談員の業務が明確になり、業務への意識を持つことができた。

各事業の稼働率は昨年度と同等もしくは微増傾向であった。慈久園では 3 人の新規入所を迎えたものの、3 人の退所があり欠員の補充にはつながらなかった。

事業収入では、加算等により増収とはなったが、稼働率の面からは施設部門、通所部門ともに 90%程度であり、利用状況には課題が残った。

2. 入所利用者の活動の場となる活動交流館事業の推進

「活動交流館 あとらんだ」の活動は 1 月中旬にスタートした。利用者を含めた活動推進メンバーが中心になって活動の紹介をしながらイメージづくりをし、利用につなげた。安心して出かける場所があること、定期的な利用ができることに今後の活用期待が膨らんでいる。

3. 介護の基本に沿い、利用者の状態に応じた丁寧な支援の提供

慈久園では、一昨年導入した眠りスキヤンの活用を深めるため研修を行った。眠りの質や体調の変化を視覚で確認し、その変化を支援に活かす視点を学び、それらを実践すべく取り組んでいる。また、新たにインカムを導入したことで、業務中の情報共有は格段に上がり、迅速な対応が可能になった。

一方で利用者の高齢化により、障害に加え疾病や加齢に伴う機能低下が顕著で、日常の支援はより細かな観察と個別の支援が必要となっている。介護職員と看護職員の連携はもちろん、専門職とも情報共有し連携を図りながら、それぞれの課題に向き合ってきたが、昨年度は誤嚥による大きな事故が起きてしまった。事故の要因を振り返り、早急に対策を講じてきたが、利用者全体が重度高齢化した中で、今後も不安が軽減することはない。これまで、毎日の日課は利用者全体の動きの中で業務を組み立ててきたが、70 歳代 80 歳代が全体の 26.4%を締めている現状では、支援のあり方を大きく見直す必要があると考える。

4. 利用者の気持ちを丁寧に汲み取り、適切な支援に努める

職員間で意思決定支援の学習の機会をつくとともに、利用者とのコミュニケーションを深めるために、職員個々の気づきや現在のコミュニケーション手段を共有し、日々の支援に活かしてきた。新たな取組として、iPad を利用したコミュニケーションツールの情報を得て、やまさん内でセミナーを開催した。アプリを活用し視覚も取り入れたコミュニケーションツールで、ご家族にも情報提供し導入を進めていく。

また、意思決定支援の取り組みに向けて、意思決定支援指針、マニュアル等の(案)作成、確認方法等の体系整備に向け準備を進めた。

5. 基幹相談支援センターの役割の見える化を推進

基幹相談支援の役割の見える化を目指し、相談員の業務役割を分担した。基幹相談支援では各相談支援部会の事務局として円滑な運営に努めた。新たに児童のサービス事業所が集まった「サポート子ども」が結成され、児童を取り巻く共通の課題に対して事業所間の情報共有を図り、連携していくこととなった。

また、昨年度は、精神科病院での退院にむけた会議への参加依頼が多く、退院後に関係機関と連携して活動することが増えた。多様な相談に対して関係機関と支援の方向性や役割等を確認する個別支援会議が増えている。

計画相談については、特に児童の利用者の増加に対して、セルフプランを提案し、次年度からの運用を目指し準備を進めた。

6. 地域の公益的な事業への積極的参加を推進

慈久園では2月から駐車場からの通勤路のゴミ拾い等、環境美化の取組を始めた。

やまさんでは校区の夏祭りやどんと焼きに参加依頼を受け、出店の形で協力した。

また、みやま市内の障害児者の事業所で、市内の障害を持つ児者の活動体験と生活の楽しさを広げるためにリトミックとダンスの活動披露体験会を企画し開催した。300人程の参加者があり、次回開催の要望が多く聞かれ、次年度への継続事業となった。

みやま市社会福祉法人連絡会の法人バザーが開催され、各施設から持ち寄った福祉用具等を販売した。本園も参加し、社会福祉法人相互の関係づくりも深めることができた。

【総務課 総務係】

1 安定的な事業運営

(1) 適切な法人運営に取り組む

<理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況>

監事会 令和6年5月27日	・令和5年度監査
第205回理事会 令和6年6月4日	・令和5年度事業報告並びに収支決算報告(監査報告含む)について ・令和5年度社会福祉充実計画について ・永年勤続規程の一部改正について ・経理規程の一部改正について ・職員給与規程の一部改正について ・運営規程の一部改正について ・次期評議員会の開催日程並びに議題及び議案について
第90回評議員会 令和6年6月23日 (欠席: 牟田口)	・令和5年度事業報告並びに収支決算報告(監査報告含む)について ・令和5年度社会福祉充実計画について
第206回理事会 令和6年10月15日	・活動交流館あとらんだの改修工事について ・障がい者支援施設慈久園の下水道切替工事について ・障がい者支援施設慈久園の介護浴槽の入替について
第207回理事会 (書面決議) 令和6年11月15日	・活動交流館あとらんだの改修工事の請負業者の決定について ・障がい者支援施設慈久園の下水道切替工事の請負業者の決定について
第208回理事会 令和7年1月17日	・令和6年度 第1次補正予算について ・クレジットカード使用規程の制定について ・次期評議員会の開催日程並びに議題及び議案について
第91回評議員会 令和7年1月25日 (欠席: 岡野・牟田口)	・令和6年度 第1次補正予算について
第209回理事会 令和7年3月15日	・2024年度(令和6年度)第2次補正予算について ・2025年度(令和7年度)組織体制の一部変更について ・2025年度(令和7年度)事業計画並びに収支予算について ・経理規程の一部改正について ・職員給与規程の一部改正について ・初任給、昇格、昇給等に関する規則の一部改正について ・利用者預り金等管理規程の一部改正について ・各種委員会規程等の一部改正について ・各種委員会委員の報酬等に関する規程の一部改正について ・次期評議員会の開催日程並びに議題及び議案について
第92回評議員会 令和7年3月23日 (欠席: 牟田口)	・2024年度(令和6年度)第2次補正予算について ・2025年度(令和7年度)事業計画並びに収支予算について

<指定更新>

事業所	事業	更新年月日	有効期限
ホープ	特定相談支援事業	令和6年9月1日	令和12年8月31日
ホープ	一般相談支援事業	令和6年10月1日	令和12年9月30日

<加算の算定状況>

事業	加算	算定開始	備考
慈久園	各種加算・処遇改善加算	令和6年4月1日	令和6年度障害福祉サービス等報酬改定
やまさん	各種加算・処遇改善加算		
ホープ	体制加算		
プレス	体制加算		
慈久園(施設入所)	栄養マネジメント加算	令和6年7月1日	
慈久園(施設入所)	感染対策向上加算	令和6年10月1日	
やまさん	常勤看護職員等配置加算Ⅲ	令和6年12月1日	(Ⅱ⇒Ⅲへ変更)
慈久園(生活介護)	送迎加算Ⅱ	令和7年1月1日	

<運営指導の実施状況>

月日	対象事業	実施者	指摘事項等
12月18日	障がい者支援施設慈久園	福岡県 (福祉総務課)	文書指摘事項0件 文書指導事項1件 口頭指摘事項10件 助言1件
		福岡県 (障がい福祉課)	文書指摘事項1件 文書指導事項4件 口頭指摘事項0件 助言0件
1月31日	社会福祉法人慈久福祉会	みやま市	文書指摘事項4件 文書指導事項0件 口頭指摘事項7件 助言3件

(2)職員確保の取り組みを強化する

<ホームページ更新>

更新月日	更新内容
7月4日	情報公開記事(事業計画、事業報告等)公開
7月22日	イベント記事(慈久園、やまさん、ホープ)公開
8月13日	やまさん通信公開
9月9日	広報誌こすもす公開
12月10日	イベント記事(慈久園、やまさん、ホープ)公開、求人情報を更新
3月31日	イベント記事(慈久園、やまさん、ホープ)公開

＜入職者及び退職者の状況＞

(人)

	正規職員	準職員	パート職員	特定技能	計
入職者	4	0	5	5	14
退職者	4	0	4	1	9

*上記には、専門パートの入退職は含めていません

(夜勤専門看護職員 1 人入職、夜勤専門介護職員 2 人退職)

＜週 40 時間勤務の常勤職員状況の推移＞

*各月 1 日現在の職員数

(人)

職員区分		R2 年 4 月※1	R3 年 4 月	R4 年 4 月	R5 年 4 月	R6 年 4 月	R7 年 4 月※2	※2 と※1 比較
慈久園	正規基本職員	42	37	33	32.3	29.7	33	-9
	正規限定職員	1	4	8	6.8	6	3	2
	定年再雇用職員	2	1	1.5	1.2	1	2	0
	準職員	5	7	7	7	6	7	2
	特定技能	0	0	0	0	4	5	5
	計	50	49	49.5	47.3	46.7	50	0
やまさん	正規基本職員	18	17	13	12.2	10.3	12	-6
	正規限定職員	0	0	1	2.2	2	0	0
	定年再雇用職員	1	1	4	2	3	2	1
	準職員	0	1	0	0	1	2	2
	特定技能	0	0	0	0	0	3	3
	計	19	19	18	16.4	16.3	19	0
ホープ・ブレス	正規基本職員	4	4	5	4.5	4	3	-1
	正規限定職員	0	0	0	0	0	0	0
	定年再雇用職員	0	0	0.5	0.8	0	0	0
	準職員	0	0	0	0	0	0	0
	特定技能	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	4	5.5	5.3	4	3	-1
法人	正規基本職員	64	58	51	49	44	48	-16
	正規限定職員	1	4	9	9	8	3	2
	定年再雇用職員	3	2	6	4	4	4	1
	準職員	5	8	7	7	7	9	4
	特定技能	0	0	0	0	4	8	8
	合計	73	72	73	69	67	72	-1

<職員状況>

(人)

職員区分		R6 年 4 月	6 月	8 月	10 月	2 月	R7 年 4 月
慈久園	正規基本職員	29.7	29.7	29.7	30	30	33
	正規限定職員	6	6	7	7	6	3
	定年再雇用職員	1	1	1	1	1	2
	準職員	6	6	5	5	7	7
	特定技能	4	4	4	5	5	5
	パート職員	13(7.1)	13(7.1)	15(7.9)	15(7.6)	13(6.4)	12(5.9)
	専門パート	13(2.3)	12.5(2.3)	11.5(2.2)	12.5(2.4)	12.5(2.4)	10.5(2.2)
	計	72.7(56.1)	72.7(56.1)	73.2(56.8)	75.5(58.0)	74.5(57.8)	72.5(58.1)
やまさん	正規基本職員	10.3	10.3	10.3	11	11	12
	正規限定職員	2	2	2	2	2	0
	定年再雇用職員	3	3	3	3	3	2
	準職員	1	1	1	1	1	2
	特定技能	0	0	2	2	3	3
	パート職員	16(8.9)	16.5(9.0)	17.5(9.4)	17.5(9.7)	16.5(9.4)	15.5(8.9)
	専門パート	1(0.1)	1(0.1)	1(0.1)	1(0.1)	1(0.1)	1(0.1)
	計	33.3(25.3)	33.8(25.4)	36.8(27.8)	37.5(28.8)	37.5(29.5)	35.5(28.0)
ホープ・ブレス	正規基本職員	4	4	4	4	4	3
	正規限定職員	0	0	0	0	0	0
	定年再雇用職員	0	0	0	0	0	0
	準職員	0	0	0	0	0	0
	特定技能	0	0	0	0	0	0
	パート職員	1(0.4)	1(0.4)	1(0.4)	1(0.4)	1(0.4)	1(0.4)
	専門パート	1(0.5)	1(0.5)	1(0.5)	1(0.5)	1(0.5)	1(0.5)
	計	6(4.9)	6(4.9)	6(4.9)	6(4.9)	6(4.9)	5(3.9)
法人	正規基本職員	44	44	44	45	45	48
	正規限定職員	8	8	9	9	8	3
	定年再雇用職員	4	4	4	4	4	4
	準職員	7	7	6	6	8	9
	特定技能	4	4	6	7	8	8
	パート職員	30(16.4)	30.5(16.5)	33.5(17.7)	33.5(17.7)	30.5(16.2)	28.5(15.2)
	専門パート	15(2.9)	14.5(2.9)	13.5(2.8)	14.5(3.0)	14.5(3.0)	12.5(2.8)
	合計	112(86.3)	112(86.4)	116(89.5)	119(91.7)	118(92.2)	113(90.0)

*各月 1 日現在の職員数、()内は常勤換算数

*令和 5 年度から外国人労働者(特定技能)の雇用を進め、慈久園でインドネシア国籍 3 人、ミャンマー国籍 2 人、やまさんでインドネシア国籍 3 人を雇用している。

(3) 職場定着に向けた取り組みを強化する

<各種休暇の取得状況>

	慈久園	やまさん	ホープ	ブレス	計
年次有給休暇取得率	67.5%	72.5%	58.0%	25.0%	68.2%
バースデイ休暇取得率	84.1%	81.1%	75.0%	100%	82.9%
リフレッシュ休暇取得率	86.8%	90.3%	100%	100%	88.6%
感染症特別休暇取得者	26人	18人	2人	0人	46人
感染症特別休暇取得日数	108日	60日	5日	0日	173日

*感染症には、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症が含まれます

<研修等への参加状況>

(人)

	慈久園	やまさん	ホープ	ブレス	計
研修等の機会(回)	46	12	5	7	70
参加者延べ数(人)	70	15	5	7	97

<研修会の実施状況>

(人)

研修月日	内容	講師	参加人数
4月24日	人間力研修(役付職対象)	九州人事労務オフィス 社会保険労務士 野田英紀様	12
5月27日	人間力研修(管理職対象)		8
6月26日	人間力研修(役付職対象)		12
7月29日	人間力研修(管理職対象)		8
8月26日	人間力研修(管理職対象)		8
8月21日	ハラスメント研修 (やまさん、ホープ、ブレス)	コーディアル社会保険労務 士事務所 高橋美紀様	21
8月27日	ハラスメント研修(慈久園)		22
11月20日	メンタルヘルス研修 (やまさん、ホープ、ブレス)		22
11月28日	メンタルヘルス研修 (慈久園)		17

<産業医変更>

	変更前	変更後
変更年月日	令和6年4月30日まで	令和6年5月1日から
産業医	入江 章 医師	古賀 有希 医師
医療機関	入江内科小児科医院	きくち胃腸科内科クリニック

*入江医師からの退任申出により、柳川山門医師会へ相談し、産業医変更となる。

2 適切な業務推進

(1) 役割分担を見直し、適切な業務を推進する

・係員のレベルアップを目指し、役割分担を上半期、下半期の2段階で見直しを行い、毎月の係会議で進捗状況を確認しながら新たな業務習得を目指した。現状の勤務シフトでは業務指導の時間確保が難しく、次年度以降、勤務シフトを調整し、計画的に実施する。

<事務業務効率化の取組状況>

実施月	実施場所	実施内容
5月	やまさん	ノートパソコン7台入替、HDからSSDへ変換
6月	慈久園	ノートパソコン4台入替
6月	ホープ	ノートパソコン4台入替
7月	慈久園	福祉大臣・給与大臣ソフトのクラウド化
8月	慈久園	LINEWORKS(情報共有ツール)有料化に伴う対応検討
9月	慈久園	LINEWORKS(情報共有ツール)グループ単位での活用実施
11月	慈久園	電話環境更新(光電話対応)
11月	ブレス	iPad購入
12月	法人	文字起こしwebツール導入
12月	活動交流館	光電話、ネット回線開通
2月	ホープ	出先PC操作時のPC紛失防止タグ導入

(2)適切な固定資産等の管理と取得を行う

<固定資産の取得状況>

取得月	事業所	内容	業者
4月	やまさん	置き去り防止安全装置4台	永江自動車
4月	慈久園	レストランエアコン	九電工
4月	慈久園	厨房エアコン	九電工
7月	慈久園	ソフトウェア(福祉大臣・給与大臣)	諸井会計
8月	慈久園	居室用エアコン	九電工
8月	慈久園	事務所エアコン	九電工
9月	やまさん	リハビリベッド	東京ダイヨー
10月	慈久園	浴室グレーチング	瀬口組
10月	慈久園	電動ベッド3台	東京ダイヨー
12月	慈久園	介護浴槽、ストレッチャー2台	オージー技研
12月	慈久園	厨房エアコン	九電工
12月	慈久園	居室エアコン	九電工
12月	やまさん	ポータブル電源	丸善産業
1月	慈久園	床走行リフト	東京ダイヨー
2月	慈久園	厨房ガス給湯器	九電工

<工事、設備品交換、修理、衛生管理>

4月	慈久園	トイレエアコン修理	九電工
4月	慈久園	廊下エアコン修理	九電工
4月	慈久園	レストランエアコン交換	九電工
4月	慈久園	汚物流しの蛇口交換(2か所)	九電工
4月	やまさん	扉滑車交換(5か所)	柿原組
5月	慈久園	厨房トイレ洗面台の蛇口交換	九電工
5月	やまさん	洗面台の部品交換	九電工
6月	慈久園	洗面台の排水管交換	九電工
6月	慈久園	定期床清掃	テス・サービス
6月	やまさん	定期床清掃	テス・サービス

6 月	慈久園	浄化槽修理	だるま商事
6 月	慈久園	事務所エアコンガス補充	九電工
6 月	やまさん	トイレの排水管交換	九電工
7 月	慈久園	業務用洗濯機部品交換	東京洗染
7 月	慈久園	職員トイレ便座カバー交換	九電工
8 月	やまさん	井水から市水への切替工事	九電工
9 月	慈久園	LED 照明交換工事(共用部のみ)	ベスト IT ビジネス
9 月	やまさん	トイレのタンク清掃(2 か所)	九電工
10 月	慈久園	ひかりゾーンナースコール親機修理	九電工
12 月	慈久園	下水道切替工事、浄化槽廃棄	瀬口組
1 月	慈久園	ひかりゾーントイレ配管修理	九電工
1 月	慈久園	ひかりゾーン洗面台配管修理	九電工
1 月	慈久園	玄関自動ドア開閉センサー交換	九州 AD システム
3 月	慈久園	あかり 2 座敷トイレ修理(2 回)	九電工
3 月	慈久園	厨房流し台蛇口交換(4 か所)	九電工

< 公用車関係 >

実施月	事業所	内容	車種
4 月	慈久園	バッテリー交換	ひまわり 3 号
9 月	慈久園	ファンベルト、クーラーベルト交換	ワゴン R

< 助成金交付決定状況 >

交付決定月日	事業内容	交付決定金額
6 月 26 日	令和 5 年度補正サービス等生産性向上 IT 導入支援事業費補助金(慈久園 ソフトウェア 福祉大臣)	795, 555 円
12 月 17 日	福岡県障がい分野のロボット等導入支援事業補助金(慈久園 床走行用リフト 1 台)	665, 000 円
8 月 13 日	令和 6 年度自動車事故被害者受入環境整備事業(慈久園 介護浴槽 1 台、担架 2 台)	3, 850, 000 円
8 月 30 日	特定求職者雇用開発助成金(福岡労働局)	200, 000 円
12 月 25 日	福岡県障がい分野の ICT 導入支援事業補助金(慈久園 情報端末インカム 15 台)	431, 000 円
2 月 1 日 (5 月 14 日決定)	福岡県社会福祉施設等物価高騰対策支援金(慈久園 2, 008, 800 円、やまさん 155, 100 円、ホープ 14, 200 円)	2, 178, 100 円
3 月 24 日 (4 月 15 日決定)	みやま市社会福祉施設等物価高騰対策支援金(ブレス)	14, 200 円
計		8, 133, 855 円

< 助成金申請状況 > ※2025 年度事業

1 月 21 日	社会福祉法人清水基金 社会福祉法人助成事業(慈久園 電動ベッド 10 台)	2, 000, 000 円
----------	---------------------------------------	---------------

<不動産使用賃借契約>

契約月日	賃借期間	賃借物件	賃借業者(使用目的)
12月9日	令和6年12月16日 ～令和7年5月31日	みやま市瀬高町文廣字藏舛 1915番1 760 m ²	今村産業株式会社 (公共下水道工事)
3月23日	令和7年3月24日 ～令和8年3月23日	みやま市瀬高町松田字那幸 畝2116番地 599 m ²	合同会社ももいろさん (駐車場)

3. 新たな事業推進

(1)活動交流館の開設を目指す

<活動交流館の賃貸借契約>

契約月日	契約開始年月日	契約満了年月日	賃貸物件
5月21日	令和6年6月1日	令和9年5月31日	みやま市瀬高町小川52番地1 (1階122.56 m ² 、2階88.26 m ²)

<活動交流館の改修工事見積依頼>

依頼月日	依頼業者
9月16日	有限会社 長野設計コンサルタント(大牟田市大字白銀715番地2)

<活動交流館の改修工事>

契約月日	工事期間	依頼業者
11月11日	令和6年11月18日～令和7年1月15日	株式会社 柿原組

(2)開園50周年記念事業に向けた情報収集を行う

・2027年(令和9年)の開園50周年記念事業に向け、他施設の実施状況について情報収集を行ったが、詳細検討に向けての情報としては不十分な点が多く、次年度も継続して取り組む必要がある。

(3)地域への公益的な取り組みを継続する

・7月、10月、2月にみやま市社会福祉法人連絡会へ参加した。10月19日にみやま市社会福祉法人連絡会のバザーが開催され、各施設から持ち寄った福祉用具等の販売を行った。

・2月から慈久園から職員駐車場までの通勤路の清掃活動を月1回行い、次年度以降は清掃活動の範囲を広げ、取り組みを継続する。

障がい者支援施設 慈久園

【生活支援課】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍者数	55	55	55	55	56	57	57	56	56	55	54	55
在園者数	55	54	54	53	55	56	56	56	55	54	52	54
入 退 所	入 0 退 0	入 0 退 0	入 0 退 0	入 0 退 0	入 1 退 0	入 1 退 1	入 0 退 1	入 0 退 0	入 0 退 1	入 0 退 1	入 0 退 0	入 1 退 0

*毎月1日の在園者数で表記、3月は31日現在で在園者数を表記

*K様：5月11日入所

*N様：9月10日入所

*Y様：9月30日退所

*K様：12月27日退所(逝去)

*S様：1月10日退所(逝去)

*Y様：3月14日入所

＜年齢別状況＞

平均年齢 64.2 歳 (2023 年度の平均年齢 63.7 歳)

(人)

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
男性	0	2	1	6	9	4	2	24
女性	0	0	2	4	15	7	3	31
計	0	2	3	10	24	11	5	55

*3月31日の在園者数で表記(以下、障害支援区分別状況も同様)

＜障害支援区分別状況＞

平均障害支援区分 5.7

(人)

	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性	0	0	3	21	24
女性	0	1	4	26	31
計	0	1	7	47	55

＜交流集会＞

(人)

月	参加利用者	内容
4月	50	サークル、日帰り旅行について
5月	59	日帰り旅行について
6月	58	活動交流館について
7月	55	水害について
8月	-	※台風準備や感染対応により、ゾーンごとに伝達
9月	58	ひまわり祭りについて
10月	57	ひまわり祭りについて
11月	58	元旦の過ごし方、初詣・初売りについて
12月	-	※感染対応により、ゾーンごとに伝達
1月	53	活動交流館レポート
2月	54	活動交流館レポート
3月	-	※感染対応により、ゾーンごとに伝達

*次月の活動や感染対応について確認をした

*「外に出よう」「声を出そう」をテーマとして集会の最後は毎月歌を歌うことを恒例にした。

<重大事故>

12月27日朝食介助時に誤嚥による重大事故(死亡)が起きた。食事介助が大変難しい利用者であり、当日は感染症による隔離体制のため、厳しい職員配置のなか介護職員は一人に対応していたこと、利用者自身も発熱後、体調の変化があったのではないかなど、複数の要因が重なったと思われる。

1月8日福岡県福祉労働部障がい福祉課より運営指導あり。1月28日検証会議を開催し、広川町福祉係、みやま市障がい福祉係より出席頂き、事故状況や利用者自身の課題等踏まえたうえで、どのような状況下でも安全な介護の提供に努力するよう助言を受ける。

誤嚥による重大事故を受け、嚥下障害の理解、食事介助のスキルアップ目的に全職員を対象に1月14日～2月5日の期間に計6回実施した。食事摂取に課題がある利用者の個別食事マニュアルを作成し、安全な食事提供に努めている。また、インカムの導入によりその場での情報共有が可能となり、必要時に確認しながら食事介助ができるようになった。

【支援調整係】

1 利用者のニーズに応じた適切な支援の充実

(1) 個別支援の充実と適切な支援への取り組み

・毎月、担当者、看護職員、栄養士等と個別支援会議を行い、利用者本人の意向を確認しながら計画作成、モニタリングを実施した。日常場面での意見などは各ゾーンの申し送りなどで情報共有、確認を行った。

(2) チームの強化を図る

・業務の調整が難しく、係内の会議を定例化(毎月開催目標)することができず、開催は4回(上半期、下半期に各2回)となった。

・医務室の人員が減ったこともあり、受診引率等を優先したため、当係と医務室との業務調整の時間の確保が難しく、サビ管が個別に医療職、専門職にその都度相談しながら進めたケースが多く、チーム力の強化を図ることには課題が残った。

<ケース会議>

(回)

	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計
食事	0	0	0	6	7	2	2	17
退院	0	1	0	0	0	1	1	3
身体拘束	0	0	0	0	0	0	0	0
日常支援	0	0	0	2	3	7	0	12
計	0	1	0	9	10	10	3	33

*対象利用者 17 人

*サビ管を中心に日々の生活上で課題がある方や生活支援員からの相談などを受けた方に対し、必要に応じて各専門職種(栄養士、ST、PT)も入り協議した。ST が常勤となり、食事に関しての検討事項が増え、食事姿勢や形態など随時話し合いを行った。

(3) 思いの汲み取りを丁寧に行う

・個別支援会議では地域移行の意向について確認を進めたが、イメージづくりが難しいこともあり、希望される方はいなかった。

・コミュニケーション部会とともに意思疎通が難しい方の思いを確認するため、判断基準となる観察項目など担当者や各ゾーン職員からの聞き取りにより 12 人の利用者方の意思疎通に関するポイントをまとめた表を作成した。今後の意思の汲み取りへ活用していく。

・「利用者アンケート」での意見は職員向けに掲示し、来年度はゾーンごとに多かった意見をゾーン目標として取り組むよう計画する。

・「急変時における医療行為に関する意思確認書」の聞き取りが今年度できていなかったため、個別支援会議の中で意思の汲み取りを意思決定支援の一項目として行う。

(4) 適切な退院の準備、利用者受け入れ体制の整備をする

・退院前のカンファレンスは十分に行うことができなかったが、退院後に病院からの情報をもとに本人と食事や生活面について確認。ターミナルの利用者に関しては日々の情報を記載する記録用紙を作成し、支援内容の共有、統一を図った。再入院のさいは生活支援員とともに毎日の面会を行い、本人の希望を聞き対応した。

・ご家族面会時には近々の情報をきちんと伝え、必要に応じ専門職からの説明を行っ

た。遠方のご家族とのやり取りが疎遠になっている為、適宜連絡し、状態報告や写真など個別支援計画等の郵送時に同封するよう配慮していく。

2 利用状況の安定

(1) 安心して生活移行できる入所準備を整える

・入所希望者の情報収集の為、3 回ほど時間をかけて生活支援員とともに病院へ出向き、本人との面会や病状の変化、対応方法などを確認。入所後も本人の意向など伺ながら、対応方法について精神疾患に対する研修やグループワークを行い、利用者の把握に努めた。

(2) 在宅生活者のニーズに応える

< 短期入所 >

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用日数(日)	70	89	74	32	77	65	68	76	53	64	66	63	797
実利用者数(人)	27	29	29	16	28	25	24	28	23	22	29	23	303

*短期入所では、33 人(定期利用)契約。緊急時(自然災害時、親族の入院時)に限られる方も複数人いる。他 3 人契約しているが現在定期利用なし。感染状況により受け入れを制限した月あり。児童の緊急受け入れ相談があり、可能な範囲で他事業所協力のもと対応した。

*4 月～9 月まで緊急での短期入所利用の受け入れを行った。(上記の表に含めず)

< 生活介護(通所) >

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用日数(日)	47	52	42	30	71	47	46	51	52	52	51	62	603
実利用者数(人)	8	8	7	8	10	9	9	8	8	8	8	9	100

*固定で通所利用される方は 7 人。月水木金の週 4 日開所より開始。7 月からは火曜日の利用希望があり、月～金までの 5 日間開所した。短期入所期間の日中支援として支給量範囲での生活介護の利用あり。

(3) 利用状況の管理を確実に行う

・重度心身障害の方、医療的ケアを要する方の入浴支援については、支援内容を個別支援計画書に記載し、利用者及び家族に説明を行った。
・入院されている方に対し、定期的な連絡や面会を行い、状態把握に努めた。
・通所生活介護提供時間、食事や入浴、送迎について正確に記録できるように努めた。

3 食事支援

(1) 安全で楽しい食事を提供する

・嗜好調査より、食べたいメニュー(オムライス、菓子パン等)を取り入れ、カレーライスのトッピングを選択できる機会を提供した。
・マッシュ食で対応している利用者も普通の形態を食べたいという思いが聞かれ、ST 評価のもと献立内容を確認し、食材のカット方法を工夫し、姿勢を意識しながら、安全に食べることができるよう支援した。

<行事食>

実施月	行事	メニュー
5月1日	開園記念	ちらし寿司、肉巻き、新玉ねぎと生ハムのマリネ、すまし汁(菜の花)、苺ババロア
6月18日	マイリンピック	オムライス、鶏肉の唐揚げ、たこさんウインナー、ブロッコリーのサラダ、オレンジ
7月24日	土用丑の日	うな井、胡瓜と山芋の酢の物、すまし汁(豆腐・みつば)、すいか
9月25日	トッピングカレーライス	トッピング具材5種(とんかつ・ウインナー・揚げ茄子・温泉卵・チーズ)の中から2種もしくは2個選択
12月24日	クリスマス	ロールパン(苺ジャム)、ビーフシチュー、レタスのサラダ、コーヒーストック、ミニケーキ
1月1日	正月(昼食)	おせち料理
1月1日	正月(夕食)	コロコロステーキ
2月3日	節分の日	巻き寿司、まぐろの刺身、味噌汁、節分菓子
2月26日	セレクト鍋	寄せ鍋またはカレー鍋、雑炊、オレンジゼリー
3月3日	ひな祭り	ちらし寿司、含め煮、味噌汁、桜もち

*6月の行事食では、ワンプレートに盛り付け、午後からのマイリンピックのクイズのヒントになる国旗をオムライスに乗せて楽しんでもらえるように提供した。

*2月の行事食では、事前により鍋から人気投票を行い、その鍋と寄せ鍋を選ぶ方法で行った。

(2)経口維持を促進する

<食事形態> *3月31日の食事形態(昼食)で表記 (人)

主食	普通	軟飯	全粥	ソフト	計
2023年度	17	7	25	3	52
2024年度	13	10	22	3	48

副食	普通	中間きざみ	マッシュ	ソフト	計
2023年度	16	0	29	7	52
2024年度	17	0	24	7	48

*ST評価や多職種(生活支援員、看護職員、PT等)とのケース会議を実施し、食事形態の変更や嚥下状態の確認を行った。STより夕食前の嚥下体操を実施した。

(3)栄養管理を推進する

<栄養ケア> (人)

対象月	栄養マネジメント対象				療養食対象
	人数	(高リスク)	(中リスク)	(低リスク)	人数
4月	-	-	-	-	6
5月	-	-	-	-	6
6月	-	-	-	-	6
7月	55	(12)	(27)	(16)	6
8月	56	(14)	(26)	(16)	6
9月	57	(14)	(26)	(17)	6

10 月	57	(13)	(29)	(15)	6
11 月	56	(13)	(28)	(15)	6
12 月	56	(13)	(28)	(15)	6
1 月	54	(19)	(23)	(12)	6
2 月	53	(18)	(23)	(12)	6
3 月	55	(19)	(23)	(13)	7
平均	55.4	(15)	(25.8)	(14.5)	(6.1)

*全利用者対象に栄養マネジメントは4～6月にアセスメント、カンファレンスを実施し、計画の実施は7月より開始した。その後、3カ月毎に同様に実施した。

*栄養評価を受け、STや看護職員とも協議し、必要な栄養補給のため補助食品の導入(個人負担あり)など行い栄養管理に努めた。

(4) 委託業者との連携を図る

- ・ノロウイルス感染対策について、マニュアルを整備し共有した。
- ・毎月、アクシデントについて確認する場を設け、安全な食事提供に努めた。

<アクシデント報告>

	発注ミス	調理ミス	作業ミス	配膳ミス	異物混入	計
2023 年度	1	1	0	12	3	17
2024 年度	0	1	1	6	5	13

*異物混入件数はビニール片2件、毛髪1件、クッキングシート1件、野菜の繊維1件があった。魚の骨や肉の筋などの混入があり、毎月交流集会にて利用者へ説明を行った。

4 リハビリテーションの充実

(1) 自己の能力を引き出し、楽しめる集団活動(日中活動)を実施する

<楽しめる集団活動(日中活動)>

実施月	内容
4 月	認知機能維持向上問題 33 人
5 月	認知機能維持向上問題 34 人、集団リハビリテーション 20 人 枝豆種まき 19 人
6 月	認知機能維持向上問題 35 人
7 月	枝豆収穫 15 人、ずんだ餡のかき氷大会 46 人
8 月	認知機能維持向上問題 22 人
9 月	マンゴーピューレのかき氷大会 43 人、パフェづくり 40 人
10 月	認知機能維持向上問題 31 人、大根・カブ種まき 27 人
11 月	集団リハビリテーション 22 人
12 月	焼き芋会(さつま芋、じゃが芋) 40 人
1 月	大根・カブ収穫 16 人、巨大オセロ 36 人
2 月	認知機能維持向上問題 36 人、認知機能維持向上問題(2 回目) 36 人
3 月	集団リハビリテーション 25 人、ジャガイモ種芋植え 16 人

(2)利用者の生活状況を考慮したリハビリテーションを提供する

＜PT リハビリテーション実施状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数(回)	18	15	15	7	13	16	18	14	10	12	16	14	168
延べ人数(人)	183	186	165	63	155	152	187	139	86	126	190	112	1744

＜個別リハビリテーションプログラム＞

(人)

プログラム内容		人数	プログラム内容		人数
リラクゼーション		48	ADL 練習	歩行	12
関節可動域運動		48		立ち上がり・立位保持	15
筋力維持増強運動		36		座位保持	4
姿勢保持	腹臥位	2		移乗動作	6
	座位	7		移動動作	5
	膝立ち位	1		起居動作	6
	四つ這い位	2		温熱療法	6
	下腿下垂位	3		呼吸リハビリテーション	3
ベッドギャッジ挙上		1	感覚刺激		2
計					202

＜ST リハビリテーション＞ ※常勤 ST:2024 年(令和 6 年)9 月入職

・2025 年 4 月から始動させるため、入所利用者全員の心身状況の事前評価を実施した。

(3)利用者に応じた生活環境を設定する

・車いす上、ベッド臥床時のポジショニングを確認し、写真など居室に掲示し、生活支援課へ助言や伝達周知を行った。

・利用者の状態や生活に応じた補装具、車いす等の作製を行い、生活環境を整えた。

【生活支援係】

1 心身ともに健康的な生活の推進

(1)活動交流館事業を進める

<会議実施状況>

	参加者	検討内容
4月9日	職員2人	活動交流館の進め方について
5月14日	職員3人	活動交流館の職員メンバー、ハード面検討
6月11日	職員3人	利用者説明準備、利用者メンバー確認
8月5日	利用者4人、職員3人	活動交流館での活動について
8月13日 8月25日	利用者5人、職員5人	活動交流館下見、活動交流館近くでのショッピング
9月10日	利用者3人、職員4人	活動交流館の図面を用いてイメージ作り
10月8日	利用者2人 職員4人	活動交流館スケジュール立案、備品確認
12月10日	利用者5人 職員3人	開所式、交流集会でのお知らせについて
1月7日	職員2人	活動について
2月26日	利用者4人 職員2人	活動実施状況について
3月18日	利用者2人 職員2人	来年度の進め方

*利用者5人職員4人で開所までの準備を進め、活動内容について話し合いを重ねた。

<活動状況>

(人)

	内容	参加延数
1月20日	開所式	5
1月21日～31日	まずは活動交流館にいてみよう	19
2月1日～28日	まずは活動交流館にいてみよう お菓子作り話し合い、ボッチャ	31
3月1日～23日	お菓子作り、インスタントラーメン作り 新聞バックづくり、ボッチャ	29

*悪天候、全体行事、感染症発生時期を除き実施、3月下旬は感染対応により中止。

*本人希望(体調、気分、気候が理由)の4人を除き50の方が外出できた。

(2)生活介護(通所)事業、短期入所事業の充実を図る

・少人数の創作活動や園内外散歩を行ったり、入所者とともに音楽会などの行事に参加したり、日中活動の幅を設け、楽しんでいただくことができた。

(3)日光を浴びる機会を大切にする

・4月、5月は近隣散歩を実施し、外気に触れ笑顔が多く見られたが、6月以降の近隣散歩の実施は予定できなかった。

(4)日中活動の充実を図る

<外出>

外出内容	実施回数	参加延数	外出内容
日帰り旅行	19回	50人	キャナルシティ博多、みずほペイペイドーム 野球観戦、タマスタ筑後野球観戦、久留米ゆ

			めタウン、大牟田ゆめタウン、石橋文化センター(バラ園)、大牟田イオン(ゲームセンター、映画鑑賞)、コメダ珈琲、スイーツ ROCOCO、コンサート、園内・あたらんたでの食事会
合同外出	24 回	72 人	マハラジャ in みやま、プロレス、みやま市消防署、クリスマスコンサート(瀬高駅)、ふれあいコンサート、瀬高図書館(動物ふれあい、ツリー作り)、ドライブ、買い物(ドン・キホーテ、セリア、ドラモリ、コンビニ、マックドライブスルー、ラムー&道の駅、グッデイ、かっぱ寿司等)
計	43 回	122 人	

<園行事・ゾーン行事>

実施月	内容
5 月	開園記念行事(5/1) 大かくれんぼ大会(5/19)
6 月	マイリンピック(6/18)
7 月	盆供養(7/31)
8 月	夏祭り(8/14)、夏の音楽会(8/20)
9 月	神経衰弱ゲーム(9/15)、チャンバラ大会(9/22)、大かくれんぼ大会(9/29)、パフェづくり(9/30)
10 月	バーベキュー(10/10)、カラオケ大会(10/20)、ひまわり祭(10/30)
11 月	消防署見学(11/13)、新聞バック作り(11/18)、チューリップ植栽(11/24)
12 月	ボッチャ出前講座(12/3) クリスマス会(12/9)、カップケーキ(12/22)
1 月	新年の集い(1/1)、冬の音楽会(1/22)
2 月	節分(2/3)、バレンタイン行事(2/14)
3 月	茶話会(3/16)

*7 月感染対応のため園行事、ゾーン行事を控えた。

<サークル活動・ボランティア活動等>

実施状況	書道	朗読	健康体操	英会話	学習会	音楽	お話ポケット	計
実施回数(回)	9	11	10	17	9	8	5	69
参加人数(人)	32	93	253	464	18	210	31	1101

<ピアノ演奏会>

(人)

実施月日	主たる曲	参加者
4 月 8 日	「切手のないおくりもの」「糸」	30
5 月 13 日	「こたりのうた」「こいのぼり」	31
6 月 10 日	「雨ふりお月さん」「夏の思い出」	33
7 月 8 日	※感染対応により中止	－
8 月 13 日	「うみ」「にじ」	35
9 月 9 日	「もみじ」「虫の声」	41
10 月 14 日	「むらまつり」	39
11 月 11 日	「上を向いて歩こう」	40

12月9日	「ドレミの歌」「涙そうそう」「ジングルベル」、ハンドベル演奏	48
1月13日	三味線演奏会	54
2月10日	「川の流れるように」、オカリナ演奏	35
3月10日	「ひなまつり」、オカリナ演奏	38
計(平均)		38.5

2 機器を活用した安全な支援と業務効率化

(1) 福祉機器を活用する

・移乗時や入浴時の床走行リフト、天井走行リフトについては、使用することで介護者側の負担軽減に加え、利用者の安心した支援の提供につながった。経年劣化や使用方法の課題もあり、福祉機器の故障や修理が年々増えてきている状況。正しい取り扱いの方法の周知と管理方法、不具合時の報告体制を整えることで福祉機器使用時における事故の防止と異常の早期発見を図る。

(2) 見守りシステム(眠りスキャン)を活用する

・8月にアンケートを実施し、活用方法を理解できていなかったため、12月と2月に外部へ依頼し研修を行った。1月、同機器導入の近隣施設に活用について意見交換する機会を作った。これらを参考に、マニュアルを作成し表示画面の理解を進めることができた。3人体制の夜間帯において、歩行不安定な方がトイレを利用される際、離床検知で訪室し安全にトイレへ誘導することができた。また、短期利用の方の呼吸状態が不安定な方に対して設定呼吸数を確認し、レベル低下時にはアラームが鳴ることで夜勤者の精神的な負担を減らすことができた。さらに、入所利用者の睡眠状態含む体調管理、異常時の早期発見に活用していくことが今後の課題である。

(3) インカムの活用

・2月にインカム15台を導入した。各ゾーン3台ずつと看護職員、サビ管で情報共有できることや、同性介護で支援員が必要な場合に対応可能な職員を呼ぶことができることで業務の効率化を図ることができた。PHSと併用しての対応であるため各ゾーン3台を想定していたが、充電時間を考慮した所持時間帯の確認と休憩時間の充電の徹底が必要である。

3 支援力の向上とチームワーク

(1) 看護職員のゾーン配置により介護力の向上を図る

・褥瘡罹患患者の処置、対応について支援員と協力して進め、一人の方は1年ほど処置期間を要したが完治することができた。
・年度初めにより看護職員1人減となり、ゾーン支援を一緒に行う時間を持つことができなくなり、医療的な視点からの技術向上は難しかった。

(2) 研修を推進する

・ケアガイドラインを基準に入浴支援について、評価項目を作成し、10月に自己評価を実施した。入浴時の基本的留意点の理解と天井走行リフト介助方法については正しい支援ができているが、ストレッチャー使用方法と羞恥心への配慮については課題があった。そのため、生活支援課の会議で周知を図り、3月に他者評価を実施したが、十分な成果が見られず、次年度、再評価を実施し意識面の向上を図る必要がある。

<評価結果>

安全配慮 (ストレッチャー使用)	○	×	評価根拠
自己評価	22	6	2 人介助で移動する際にベルトを着けていないときがある。入浴中、他の方のサポートに入ることがあり、見守りが十分できないことがある。
他者評価	11	16	ストレッチャー移動時に 2 人介助の場合、必ずしもベルトは必要ではないと解釈している職員が多く、発作など不測の事態が起きた場合でも浴室内の安全を担保するためには、洗身時以外は常時ベルトを使用するべきと評価した。

羞恥心への配慮	○	×	評価根拠
自己評価	12	16	天井走行リフトを使用するためカーテンを閉めないことが多い、ベッドを移動するためカーテンを閉めないことが多い。
他者評価	2	25	天井走行リフトのレールとカーテンレールが交差して使用しにくい状況ではあるが、常態化して疑問に感じていない職員が多いため、改めて意識付けが必要である。

<外部講師研修>

(人)

研修月日	内容	講師	参加人数
8 月 24 日	介護事故予防の意識向上へ	特別養護老人ホーム 天光園 たちばな 生活相談員 具志様	29
		(伝達研修)	7
12 月 19 日	眠りスキャンの基本活用について	パラマウントベッド 園田様	26
		(伝達研修)	8
2 月 5 日	眠りスキャンを活用した 体調管理について	パラマウントベッド 園田様 オンライン指導 坂元様	15
2 月 27 日	虐待防止と身体拘束廃止 のための研修	福岡県知的障がい者福祉協会 権利擁護・研修部会 上原様、 木下様	21
		(伝達研修)	26

<新任研修>

(人)

研修月日	内容	参加者
4 月	ケアガイドライン活用(排泄・食事)	4
5 月	ケアガイドライン活用(入浴)	4
5 月	外出支援について	2
9 月	事故防止について	2
9 月	福祉機器の取り扱いについて	2
10 月	支援マナーについて	2
参加延べ総数		16

＜支援マナー評価＞

評価月	回答率	①目をみて挨拶をする	②メニューを伝える	③私語を控える
5月	92%	80%	72%	63%
6月	96%	80%	80%	39%
7・8月	91%	84%	90%	42%
9月	76%	90%	85%	36%
10月	77%	80%	90%	35%
11月	89%	92%	84%	44%
12月	96%	100%	90%	46%
1月	87%	83%	81%	28%
2月	79%	95%	93%	37%
3月	78%	93%	100%	42%
平均	86.1%	87.7%	86.5%	41.2%

*各係へ1週間の回答期間を設け評価表の回収をするが、回答率が低く来年度は2階掲示版にて掲示し、回答できていない職員に係内で声掛け回答率を上げていく。

②については、利用者からも改善できているとの声があり、一定の効果がみられた。

(3) チームワークを強化する

・「ひかり」、「あかり」の2ゾーン編成により、申し送りのやり方、応援体制の改善に取り組むが、特に「あかり」は、利用者数、職員数が増えたことで職員個々の支援スキルアップよりも発言力の差が目立つ結果となった。利用者数が多いため申し送りにも時間を要した結果となった。次年度は3ゾーン体制に戻し支援力の向上に取り組む。

・ゾーン編成を2ゾーンにすることで日勤リーダーの育成を図るも、職員個々の支援スキルと気づきの不足、業務内容の明確化など課題も多く、思うような育成が図れなかった。来年度は3ゾーンへ再編し、各ゾーンに係長を配置し、主任、業務サポーターを中心に職員育成を図る。

・担当業務の内容、責任の所在が不透明なままとなっている。職員の多様性も踏まえ、今後は、担当業務の明確化と見直しなどが必要となってくる。

(4) コミュニケーション力を高め、利用者、職員ともに楽しく笑顔で過ごす

・視覚、聴覚、言語障害の方の活動において、先のみ歌詞を伝えたり、筆記で内容を伝えるなど一緒に活動を楽しむことができたが、一方ではボランティアの方々の活動に対して、一部の職員に任せっきりになる場面も多く、課題が残った。

(5) 夜勤体制の見直し

・グローバルスタッフの夜勤業務では、同性介助面においては従来の支援員同様に対応できるよう指導できた。イレギュラーな場面や体調面の記録については課題が残る。

【医務室】

1 適切な健康管理

(1) 健康管理に努める

＜健康診断の実施状況＞ *受診者 51 人／54 人(入院 2 人、透析 1 人) (人)

検査項目	有所見者数	検査項目	有所見者数
胸部レントゲン	7	貧血	3
電解質	20	脂質異常	13
肝機能	5	CEA(腫瘍マーカー)	12
糖代謝	18	尿酸代謝	3
腎機能	3	合計	84

＜精密検査＞

医療機関	検査内容	検査結果等
あだち医院	血液検査	5 人→1 人 病名追加
ヨコクラ病院	胸部 CT	5 人→ 異常なし
ヨコクラ病院	腹部 CT	1 人→ 異常なし

*健康診断(胸部レントゲン、血液検査)を、公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構へ依頼し、6 月 25 日に実施した。

＜インフルエンザワクチン接種状況＞ (人)

接種	接種拒否	Dr ストップ	計
50	2	4	56

＜コロナワクチン接種状況＞ (人)

対象者(65 歳以上)	希望者(接種者)
26	6

＜インフルエンザ感染状況＞

対応期間	12 月 21 日～1 月 12 日 (23 日間)
感染者数	利用者 7 人、職員 7 人
主症状	発熱 咽頭痛 嘔声 咳嗽
対応状況	ゾーン隔離

＜コロナ感染状況＞

対応期間	7 月 1 日～19 日(19 日間)
感染者数	利用者 16 人、職員 6 人
主 症 状	発熱、咳、鼻汁
対応状況	7 月 1 日～10 日：4 つのゾーンで対応し職員固定(夜勤 4 人体制) 7 月 11 日～19 日：3 つのゾーンで対応し職員固定(夜勤 3 人体制)

対応期間	8 月 27 日～9 月 5 日(9 日間)
感染者数	利用者 1 人
主 症 状	発熱、咳
対応状況	8 月 23 日～25 日外出、帰園後 3 日間の個室隔離対応中に発症

対応期間	3月22日～3月31日(10日間)
感染者数	利用者1人(4人部屋利用者)
主症状	発熱、湿性咳嗽
対応状況	個室への移室および同室者の隔離対応

(2) 重度化に伴う状態の変化に応じた必要な受診等の支援を行う

＜受診・受薬状況＞ *7月は園内コロナ感染により受診調整 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定期受診	14	15	10	9	11	16	12	14	13	11	12	13	150
定期受薬	4	3	3	14	3	3	3	3	4	3	3	3	49
臨時受診	11	13	13	10	10	6	8	13	12	22	7	13	138

*夜間専門看護職員と情報共有し、継続的な支援を実施した。

＜訪問歯科受診状況＞ 受診回数 58回 (人)

受診内容	受診者	受診内容	受診者
歯石除去	92	齲蝕予防薬塗布	0
齲蝕治療	109	義歯調整	11
抜歯	10	レントゲン撮影	18
消炎・消毒	10	その他	21
ブラッシング	24	計(延べ数)	295

＜口腔内検診＞ (人)

	新規	検診・モニタリング	指導	計(延べ数)
人数	3	72	37	112

＜入院状況＞

病名	入院期間	入院日数
肺炎	4/20～5/9	20日
肺炎	5/11～9/30	163日
膀胱腫瘍摘出	6/25～7/2	8日
膀胱腫瘍摘出	8/20～8/29	10日
胃ポリープ切除	8/26～9/6	12日
発熱、検査目的	9/7～9/24	18日
加療目的	12/9～1/10	40日
肝腫瘍放射線治療	12/11～12/30	20日
気管支肺炎	1/10～1/22	13日
膀胱がん	1/12～3/3	51日
右大腿骨頸部骨折	1/14～2/3	21日
検査入院	2/3～2/5	3日
肺炎、低Na 低K	3/5～3/13	9日
一過性菌血症、腎盂腎炎	3/13～3/26	14日
細菌性肺炎	3/15～4/4	20日
ホスピス緩和ケア	3/27～4/11	16日
延べ日数		438日

＜タクティールケア＞

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数	23	24	27	29	25	29	26	26	－	26	24	17	276

*12月園内感染症対応のため中止

*3月ひかりゾーン感染症対応のためあかりゾーンのみ実施

(3)係内の業務を円滑に進める

・サビ管と看護職員との連絡会議を時間の確保が難しく、開催に至らず、個々の課題に向けて、口頭確認し業務を遂行した結果となった。

・介護職員の疾病の理解を進めることは難しく、褥瘡や終末期を迎えた方の近々の対応を協力して進めることに焦点をあてた。

【防災・防犯・感染症対策等推進会議】

1 災害及び感染症等発生時の速やかな対応

＜実施状況＞

月日	内容	
5月1日	各種計画の内容確認	<ul style="list-style-type: none"> ・各種計画(防災計画、避難確保計画、業務継続計画等)の確認について ・災害緊急時の職員組織体制の確認について ・各防災訓練の実施について ・備蓄、防災物品の在庫管理について
7月1日	感染対応確認	・コロナ感染による感染対応について
8月28日	台風対策確認	・台風10号接近に伴う対策について
9月19日	感染対策研修 講師:足達 明医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングについて ・待機隔離者の対応と隔離時の安全確保について
10月28日	感染症対応確認	<ul style="list-style-type: none"> ・協定医療機関の協定締結について ・9月の研修を受けてマニュアルの整備について ・備蓄の確認について
12月24日	感染症対応確認	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザの対応について ・監査指導事項の確認(感染症、自然災害)

地域生活応援センター やまさん

【子ども支援係】

＜契約者の年齢状況＞ 放課後等デイサービス (人)

	6～12 歳	13～15 歳	16～17 歳	18 歳以上	計
男性	8	1	3	0	12
女性	0	5	3	2	10
計	8	6	6	2	22

＜契約者市町村別＞ (人)

	みやま市	大牟田市	柳川市	大川市	計
男性	6	3	2	1	12
女性	0	9	1	0	10
計	6	12	3	1	22

＜障害別状況＞ (人)

	医ケア児	重心児	発達障害児	計
男性	2	3	7	12
女性	6	2	2	10
計	8	5	9	22

＜利用状況＞ *定員 10 人 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数(日)	26	27	25	27	27	25	27	26	26	24	24	26	311
予約数	278	303	261	283	287	277	282	269	276	240	230	268	3254
利用者数	235	259	221	257	243	231	233	220	224	224	216	238	2801
新規契約者	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4
契約解除者	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5
医ケア利用者数	91	108	88	113	101	99	103	99	98	95	95	82	1172
1日あたり医ケア数	3.5	4.0	3.5	4.1	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.1	3.7
平均利用者数	9.0	9.5	8.8	9.5	9.0	9.2	8.6	8.5	8.6	9.3	9.0	9.1	9.0

＜医療的ケア児の受入状況＞ (人)

	大牟田特別支援学校	柳河特別支援学校	計
区分 1	1	1	2
区分 2	3	1	4
区分 3	1	1	2
計	5	3	8

※区分 3…医ケア行為点数 32 点以上、区分 2…16～31 点、区分 1…16 点未満

＜学校休校等に伴う受け入れ状況＞

対応状況	期間	人数
大雨による臨時休校	6 月 28 日、7 月 1 日、7 月 10 日	20 人
台風による受け入れ	8 月 29～30 日	6 人

インフルエンザによる臨時休校	12月4～6日、12月10～12日	4人
雪警報による臨時休校	2月5～6日	6人
計		36人

1 5 領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を意識した療育への取り組み

(1) 笑顔を引き出す取り組みを推進する

- ・医療的ケア児の活動に取り組むため、活動ルームの飾りつけの工夫や雰囲気作りを大事にしたり、タクティールケアや感覚運動を取り入れることで、触れ合いや感触を楽しむ表情も緩みリラックスした様子であった。平日の活動については、注入等の優先すべき医療的ケアがあるため、実施が限られていたが、週1回の水曜日の早帰りには他児童と一緒に過ごす時間を大切にしたりした。
- ・発達障がい児、重症心身障がい児の方の外出が中心となっており、医療的ケア児は2月に恋の木神社スイーツマルシェ、3月にさげもん見学、足湯と計画のみで回数的にも少なかったため、次年度は年間の外出を計画する。

(2) 成長過程(段階)を意識した療育活動を実施する

- ・年度当初に「生活年齢の育ちの姿」を参照に年齢に応じた目標設定を確認し取り組んだが、振り返りが不十分であった。高等部3年生には就労を見据え、コピー機の使い方を説明し自力で操作できるよう関わった。
- ・個別支援計画を参考に、5領域に関する内容を確認し一覧表で整理した。自立性を養うため、自己で対応可能な場面は見守りで対応することで確認した。
- ・10月から個々の課題に取り組むため、1対1の場面を増やし、個別療育に取り組んだが、その日の出勤者数によっては1対1の対応が難しい場合もあったため、2対1で対応することもあった。また、職員間で前回取り組んだ内容に対し、申し送りをするように周知していたが、内容の把握が不十分な場面があった。次年度から、個人ファイルを準備して、取り組み状況の内容を把握できるように工夫する。

2 家族支援への取り組み

(1) 介護サービスを提供する

- ・入浴支援では当初4人のみであったが、9月から事業所送迎に変更したことで、希望者が5人となり1人増えた。当初、土曜日以外の入浴を検討したが、生活介護との調整や平日の限られた時間では実施できなかった。

3 支援ニーズの高い児童への支援の取り組み

(1) 不登校児童の受け入れを検討する

- ・現在、2人の不登校児童を受け入れている。外部講師の協力のもと、週3回国語、算数の科目を中心に学習支援に取り組んだ。また、計画相談を担うブレスとやまさんで学習支援の進捗状況を確認した。

< 個別療育活動 >

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別課題 (宿題、課題等)	4	4	6	9	4	3	14	14	14	18	18	18	126
制作活動	4	10	0	5	0	2	2	2	2	3	2	2	34

(果物、四季等)													
学習支援	10	12	9	12	9	12	6	6	6	6	6	6	100
絵画教室	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	7

< 集団療育活動 >

	健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
活動内容	アロマセラピー(8)	身体運動(14)	脳トレ(2)	ふれあいタイム(2)	外出(26)
	リラクゼーション(6)	レクリエーション(18)	クッキング(8)	のど自慢(4)	行事(18)
	手浴・足浴(5)	音楽・制作(48)	認知機能活動(10)	振り返り・目標(6)	ソーシャルスキルトレーニング(22)
	マッサージ(16)	スヌーズレン(34)	シアター(5)	読書活動(12)	
		運動感覚遊び(37)	学習会(1)	子ども会議(3)	
		外出(散歩・プール等)(13)			
		水遊び(1)			
計	35	165	26	27	66

< タクティールケア実施状況 >

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活介護	4	4	3	3	6	7	2	5	3	-	4	6	65
放課後等デイ	8	8	8	6	6	9	7	7	6	7	8	5	85

【生活介護係】

＜契約者の年齢状況＞ 平均年齢 42.4 歳 (人)

	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～	計
男性	3	3	3	4	3	16
女性	7	2	4	2	3	18
計	10	5	7	6	6	34

＜障害支援区分＞ 平均障害支援区分 5.4 (人)

	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性	1	3	2	10	16
女性	0	2	3	13	18
計	1	5	5	23	34

＜契約者市町村別＞

	みやま市	大牟田市	柳川市	筑後市	八女市	熊本県	計
男性	4	3	6	1	1	1	16
女性	2	10	4	1	0	1	18
計	6	13	10	2	1	2	34

＜利用状況＞ 定員 17 人 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数(日)	24	25	23	25	25	23	25	24	24	24	22	24	288
予約数	418	420	397	427	428	393	423	415	404	404	378	413	4920
利用者数	384	390	368	375	336	357	375	395	376	371	346	365	4438
新規契約者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
契約解除者	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
医ケア利用者数	59	74	71	68	51	55	46	56	75	70	62	53	740
1日あたり医ケア数	2.4	2.9	3.0	2.4	2.0	2.3	1.8	2.3	3.1	2.9	2.8	2.2	2.5
平均利用者数	16.0	15.6	16.0	15.0	13.4	15.5	15.0	16.5	15.7	15.4	15.7	15.2	15.4

＜実習受入状況＞

学校名	人数	実習期間
柳河特別支援学校	1 人	5 月 13～24 日(11 日間)
	1 人	9 月 19 日(1 日間)
大牟田特別支援学校	1 人	6 月 10～21 日(11 日間)
	1 人	11 月 5～8 日(3 日間)

＜生活介護利用者 ADL 状況＞ *食事(給食)なし 1 人、入浴なし 4 人 (人)

	食事	排泄	入浴	移乗	移動
自力	13	6	0	5	13
一部介助	10	9	4	11	6
全介助	10	19	26	18	15
計	33	34	30	34	34

1 適切なケアと個別支援の充実

(1) 安全な利用を継続する

- ・係会議にて、福祉機器の適切な取り扱いの説明や実践を行うことで介護技術の習得に努めた。また、日常場面の中でも係員の指導のもと、グローバルスタッフが操作し、注意点等について、その都度説明し理解を得た。
- ・利用者、家族からの申し出に対して、連絡帳に確認済みのコメントを添えることを繰り返し伝達したことで定着したが、ご家族から対応が不十分で指摘されることもあったため、確認が必要であった。

(2) 身体状況に即した介護環境を作る

- ・生活介護利用者 1 人に対し、移乗場面において人力で介助を行っていたが、福祉機器(支え手)の方法に変更したことで、本人、介助者の負担軽減に繋がった。

(3) 卒業後を見据えた利用に繋げる

- ・支援学校からの実習の相談時には、事前会議を行うことで、実習の目的等を確認でき、安心できる環境作りに努めた。

(4) 適切な感染対策を実施する

- ・感染の疑いのある利用者には、受け入れ時、抗原検査を実施し受け入れの判断や症状を見ながら他利用者と距離を置く等の配慮を行った。

(5) 利用定員の見直しに伴う適切な人員配置を行う

- ・7 月以降、グローバルスタッフ、看護職員の入職により人数が増えたことで定員に対し、適切に人員を配置することができた。

(6) 機器を活用した業務効率化の推進

- ・インカム導入を検討したが、操作方法の不安等もあり具体的な導入に至らなかった。

2 生活を楽しむ機会を提供

(1) 日中活動の充実を図る

- ・毎週水曜日の週 1 回読み聞かせや創作活動等のグループ活動を取り入れた。一方で他の曜日については、入浴からグループ活動は難しかったが毎月の月間予定表を参考に担当者を決め活動に取り組んだ。2 月から紙漉き活動を開始したため、係員が行程を理解し年間活動として実施していく。
- ・菜園活動として、5 月花の植栽や 9 月ペットボトルを活用しての大根を栽培し、発芽から成長を楽しみ、毎日、水やりを目的に外に出る機会を作った。
- ・月 1 回、外部からの協力もとタクティールケアや絵画、健康体操等を実施し、毎月の楽しみに繋がった。

(2) 外出支援の実施

- ・気候の良い日は近隣散歩の実施し、10 月にはボーリング大会や 11 月秋の紅葉外出 1 月初詣外出を実施した。

＜日中活動の実施状況＞

(回)

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学習会・机上活動	3	2	2	2	2	3	4	4	3	0	2	0	27
創作活動等	8	7	8	10	14	13	9	14	13	14	7	11	128
カラオケ等	5	7	2	5	4	6	2	2	4	1	0	2	40
クッキング	0	1	1	0	5	0	1	1	3	1	1	1	15
意見交換会	0	6	0	6	0	0	6	0	0	5	0	0	23
外出	13	2	1	3	1	7	2	9	0	10	3	1	52
エプロン作業	24	25	23	6	19	22	24	24	24	24	22	24	261

＜リハビリテーションの実施状況＞

(回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
筋力維持増強運動	30	29	30	30	27	30	30	31	31	31	30	31	360
ROM 運動	30	29	30	30	27	30	30	31	31	31	30	31	360
ADL 練習	28	28	28	28	25	28	28	28	28	28	28	28	333
呼吸練習	5	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5	58
IADL その他	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
認知機能活動 (間違い探し)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
心身機能活動 (輪投げ等)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
計	110	108	110	110	99	110	110	112	112	112	110	112	1315

3 意思決定支援を推進する

(1) コミュニケーション力の向上を目指す

・全体会議で、意思決定支援の基本的な考え方を学び、やまさんでの取り組みについて共通認識した。特に意思疎通が難しい方を対象に支援学校からの情報の整理や日常場面で小さな気づきを共有できるように「かもかもシート」を作成し意思疎通の手がかりにした。また、意思確認する場面を作るため、「誕生日スイーツ」を題材に視覚化できるよう写真を提示し、2人1組での聞き取りを行い視線や表情で判断した。また、3月10日にミニミニセミナーを開催した。身近にあるipadにて指伝話の機能を活用し、新たなコミュニケーションツールを知り貴重な学びの場となった。次年度の取り組みとして進めていく。

＜感染状況＞

(人)

	生活介護	放課後等デイ	計
感染者	9	7	16
濃厚接触者(疑い含む)	1	1	2
計	10	8	18

*7月22日～7月30日にかけて、生活介護利用者4人にコロナ罹患者を確認したため、他の生活介護利用者を対象に抗原検査を実施した。

*利用再開については、自宅療養期間終了後、8日目から受け入れた。

＜給食提供状況＞ *刻み食には、刻みトロミ含む (人)

	普通食	刻み食	ミキサー食	胃瘻	昼食持参	計
生活介護	15	14	3	2	0	34
放課後等デイ	12	2	2	4	2	22
計	27	16	5	6	2	56

4 職員の資質向上とチームワーク

(1) 係間の協力体制の強化を図る

- ・日常の支援を係内で解決しようとする姿勢が強く、係間での声掛けが不足している場面もみられたため、朝礼時や全体会議の中で繰り返し説明が必要であった。
- ・朝礼以外の時間を活用し、係内での申し送り事項や本日の予定を確認する時間を作ることで、係員の動き方も含め確認する場を作った。

(2) 利用者、ご家族からの人となり研修を継続する

- ・人となり研修については、5月15日(生活介護利用者)、9月18日(生活介護利用者ご家族)から話を聞く場を設け、生活に対する思い等を知り、その方に対して理解を深め貴重な時間となった。
- ・伝達研修；11月(虐待)、12月(感染)を行い、不適切ケアや感染時の対応方法等を確認したが、訓練迄は実施できなかった。
- ・慈久園での報告を受け、嚥下の動画視聴や個人介護マニュアル(食事)の見直しや読み合わせを行った。また、飲水介助の体験を通し安全な摂取方法について学ぶことができた。

(3) 医療機関との学習会の実施

- ・目的や具体的な進め方が明確ではなく、意識も足りず実施できなかった。

＜外部研修＞

研修月日	講師	研修内容	参加者
5月19日	㈱サニクリーン九州 中山貴治 様	救命処置と AED の適切な取り扱い方法について	14 人
8月21日	柳川療育センター 認定看護師 大津友里江 様	地域生活拠点事業研修 喀痰困難な場合の対応について	15 人
10月16日	ひらそるのいろ 管理者 夏目尚 様	やまさんの療育について	22 人
	瀬高自動車学校 教員 佐伯 様	安全運転講習について	
3月10日 第1回ミニセミナー	オフィス結アジア 代表取締役 高橋宜盟 様	ipad で重心のお子さんのコミュニケーションを考える	27 人

＜他事業所見学研修＞

- ・10月9、23、30日に放課後等デイサービスの事業所の見学研修を行った。
キッズハウスにじ(柳川市)2人、すまいるきっず(熊本県玉名市)5人
- ・スケジュール等を視覚化することで、わかりやすく説明でき安心して療育を受ける環境づくりに取り組んだ。

＜地域行事参加＞

月日	行事	出店品
5月5日	鯉・恋・来まつり	小物類(転写石鹸等)、かき氷
8月3日	岩田校区納涼の夕べ	小物類(くるみボタン等)、フランクフルト
11月23、24日	みやま市市民まつり	さをり織り(コースター等)
1月12日	今福校区どんと焼き	さをり織り(眼鏡ケース等)、フランクフルト

＜やまさん行事＞

月日	内容	参加者
9月21日	やまさんピック(ボッチャ大会)	高田中学校ブラスバンド部
10月25日	タクティールケア実施会	岩田校区住民
12月21日	クリスマス会・餅つき会	高田中学校ブラスバンド部 岩田校区住民

【日中一時支援事業】

1 日中一時支援事業を継続する

(1) 楽しく過ごせる活動を継続する

・月間予定表に沿って、レク活動や創作活動を実施することで他利用者と一緒に過ごすことで笑顔が見られた。

(2) 安心して利用できる場を提供する

・日頃、過ごされる空間を確保し職員が積極的に声掛けすることで本人との関わる時間を大切に支援した。

(3) 栄養バランスの摂れた食事を提供する

・栄養士が作成した献立を給食として提供することで、毎回、全量摂取された。

(4) 可能な範囲での緊急時や卒業後の受け入れ体制及び送迎を支援する

・緊急時や卒業後の利用についてはなかった。

(5) 対象地域は、みやま市、大牟田市を継続する

・現在、みやま市1人 大牟田市2人が利用されており、家族の意向を確認しながら受け入れた。

相談支援事業所 ブレス

【計画相談係】

<契約者数>

(障害児)133 人(新規 24 人、継続 106 人、再開 3 人)、今年度終了 16 人、者移行 1 人
(障害者) 7 人(新規 5 人)

<障害別>

(人)

	身体	知的	発達	重心	精神	計
障害児	9	8	113	1	2	133
障害者	2	3	2	0	0	7
計	11	11	115	1	2	140

<年齢別>

(未就学児)

(人)

未満児	年少	年中	年長	計
4	9	7	10	30

(小学生)

(人)

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	計
20	22	16	20	3	4	85

(中学生、高校生、成人)

(人)

中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	20 歳以上	計
7	2	3	3	1	2	7	25

<市町村別>

(人)

みやま市	大牟田市	柳川市	筑後市	久留米市	計
126	7	4	2	1	140

<支援方法別>

(人)

来所	電話	メール	訪問	同行	会議	関係機関	計
251	389	28	42	10	57	598	1,375

*訪問については、自宅訪問の件数。同行については、病院受診や事業所見学の件数。

*会議については、関係機関のみの会議と計画作成における担当者会議の件数。

1 計画相談の拡充

(1) 計画相談を実施する

・2023 年(令和 5 年)4 月から継続して、児童から大人までの継続した支援を行った。

(2) 来所相談の環境改善を行う

・面談室の遊具等の環境整備については、個別に遊具等を準備することはあったが、環境を整えることはできなかった。理由としては、ブレスだけの面談室ではないこと、保管場所の課題があり整えることができなかった。

2 情報交換と家族の交流の推進

(1) 電話やメール等による連絡を推進する

- ・契約時に連絡手段の意向確認を行い、半数以上の方とメールやLINEで連絡を行った。

(2) 家族間の交流の機会を作る

- ・家庭状況の変化や事業所利用時の問題、共通認識が必要な状況が出てきた児童を中心に、様子伺いや会議開催、行政が主催する会議に参加した。
- ・ホープと協働で「暖」を11月9日に開催し4家族が参加した。イベント後のアンケートについては、準備できていなかった。

3 ホームページ開設と学校及び事業所等の訪問

(1) ホームページを更新する

- ・ホームページの更新は、掲載する情報を集めることが出来なかったため、更新することができなかった。

(2) 行政機関との情報共有、学校及び事業所等の訪問に努める

- ・第3月曜日10時から、みやま市子ども家庭センターとの連絡会を2か月に1回のペースで開催し、困難ケースや意見交換を行った。
- ・幼稚園、保育園、学校、学童、事業所へは、利用者の状況に合わせて訪問を行った。

※医療的ケア児等コーディネーター

- ・福岡県南部医療的ケア児連携会議(研修前のコア会議)

5月14日、9月3日、10月10日 ZOOM 会議

<医療的ケア児等コーディネーター研修会・スキルアップ研修>

月日	内容	場所
8月5日	相談支援におけるスーパービジョンのあり方 事例を通してのグループスーパービジョン	吉塚合同庁舎
11月12日	医療的ケア児と家族への支援 医療的ケアが必要な方への地域での取り組み 事例についてのグループワーク	大牟田アリーナ
12月10日	医療的ケア児の就学支援について 成人移行期についての事例を通してグループワーク	久留米市役所

※1年間を振り返って

- ・今年度も、手帳を所持している児童は少なく、診断書でのサービス利用児童が多かった。また、兄弟児の相談も多く見られたように感じる。福祉サービスの利用を希望される児童は増えているが、受け入れできる事業所は少ない状況は続いている。
- ・不登校児が福祉サービスを終了すると、ブレスとの関わりも終了となる。しかし、卒業後の居場所は確保できておらず、どこにもつながっていない状態ができてしまう。この点については、今後の課題の一つと感じる。
- ・学校、学童、保育園等との連携については、以前と比べて広がりつつあるが、まだ相談支援事業所の認識やサービスの理解が薄い関係機関もある。福祉サービスを利用する上での、アセスメントの取り方や関係機関との連携の仕方をもう一度見直していく必要があると感じる。

相談支援センター ホープ

【計画相談係】

<計画相談の概況>

①障害別 (人)

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能	その他	計
障害者	58	1	72	68	13	0	0	212
障害児	3	0	3	1	0	0	0	7
計	61	1	75	69	13	0	0	219

*実人数：障害者 198 人、障害児 7 人

*計画相談は、計画相談支援の契約を取り交わし、障害福祉サービスを利用中の方について計上

②支援方法別件数 (件)

支援方法	件数
訪問	1225
来所相談	175
同行	83
電話相談	893
電子メール	76
個別支援会議	82
関係機関	1454
その他	2
計	3990

③支援内容別件数 (件)

支援内容	件数
福祉サービス	3224
障害や病状の理解	18
健康・医療	265
不安の解消・情緒安定	37
保育・教育	13
家族関係・人間関係	46
家計・経済	67
生活技術	85
就労	93
社会参加・余暇活動	140
権利擁護	2
その他	0
計	3990

*電話相談が前年度 1380 件から 893 件に大幅に減少している。毎日何度も世間話等のたわいもないことで電話をされていた方が 8 月に入院、9 月に逝去されたためと考えられる。

*新規や再支援の計画相談支援をホープで受けることが難しく、相談があった場合は市内の相談支援事業所に依頼をした。

1 計画相談支援の拡充

(1)計画相談を推進する

- ・進級、進学、介護保険に移行時などライフステージに添って本人や家族の意向を確認しながら継続的な支援を行った。
- ・ホープ内に事業所のパンフレットを市、事業ごとにファイルに見やすく整理したが、ホープに置いていない事業所のパンフレットを取り寄せることはできなかった。
- ・書面への同意署名だけに時間を作ることが難しく、モニタリング時に同意署名をいただいた。

基幹相談支援センター ホープ

【相談支援係】

<基本相談の概況>

①障害別 (人)

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能	その他	計
障害者	19	0	28	84	5	0	26	162
障害児	0	0	2	2	5	0	5	14
計	19	0	30	86	10	0	31	176

*実人数：障害者 156 人、障害児 14 人

②相談支援方法別件数 (件)

支援方法	件数
訪問	384
来所相談	88
同行	58
電話相談	997
電子メール	27
個別支援会議	28
関係機関	847
その他	2
計	2431

③相談支援内容別件数 (件)

支援内容	件数
福祉サービス	921
障害や病状の理解	76
健康・医療	243
不安の解消・情緒安定	181
保育・教育	14
家族関係・人間関係	296
家計・経済	89
生活技術	164
就労	256
社会参加・余暇活動	165
権利擁護	26
その他	0
計	2431

*精神科病院に措置入院した方の退院後について入院中から会議に出席し、退院後は関係機関と一緒に自宅訪問することが増えた。関係機関の件数も増加しており、多様な相談に対して関係機関と連携し、支援の方向性や役割等を検討する個別支援会議が増えている。

*相談支援内容については、福祉サービスや就労に関しての相談がもっとも多く、次いで家族関係・人間関係が多かった。家族が本人の現状や親亡き後の生活を心配する相談も増えている。ただ、本人が困りを感じていないようで解決策が見いだせず対応の難しさがある。児童のサービス利用が増えており新一年生の保護者は早い段階から利用に向けて動かれている印象である。市内の通所事業所は空きがなく、事業所を探すのが難しくなっている。利用するための計画相談支援を担う障害児相談支援事業所も相談員一人あたりの件数が多く相談を受けることが厳しい状況にある。それは障害者の計画相談支援も同じである。

1 相談支援の市内における基幹機能の推進

(1) 自立支援協議会の各部会活動の活性化を目指す

<自立支援協議会>

月日	内容
11月27日	委嘱状交付、会長・副会長の選出について みやま市障がい者自立支援協議会について 基幹相談支援センター事業実施状況報告、各部会報告
3月19日	委託相談支援事業についての報告 地域生活支援拠点事業についての報告 こども支援部会の開設について 令和5年度障がい福祉サービス実績評価について

<相談支援部会>

出席者：みやま市福祉課、南筑後保健福祉環境事務所、相談支援事業(アシスト)社協相談支援センター(12月まで)、くすの木、ゆ〜ずぽけっと(4月から加入)、プレス、ホープ(事務局)

月日	内容
4月23日	相談支援部会年間計画について、報酬改定について
5月21日	みやま市の移送サービス及び相談支援体制協同型モデルについて
6月18日	研修：地域生活支援拠点事業の取り組みについて 講師：社会福祉法人たからばこ、拠点コーディネーター橋爪大輔氏
7月16日	研修の振り返り、相談支援体制協同型モデルについて 情報交換会(相談支援部会研修会、事例検討について)
8月20日	地域生活支援拠点事業における緊急対応について、ケース検討
9月18日	研修：精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて 講師：南筑後保健福祉環境事務所 酒井千恵美氏
10月15日	こども家庭センターの取り組みについて、意見交換会
11月12日	みやま市地域包括支援センターの取り組みについて、意見交換会
12月17日	ケース検討、意見交換、次年度の部会の取り組みについて
1月21日	基幹研修
2月18日	研修：「アルコール依存症について」 講師：南筑後保健福祉環境事務所 坂井氏、大津氏
3月18日	今年度の振り返り、来年度の取り組みについて

<就労支援部会>

出席者：みやま市福祉課、大牟田公共職業安定所、障害者就業・生活支援センターほっとかん、就労移行支援事業所(サンビジネス)、就労継続支援 A 型事業所(くすの木苑、ピート)、相談支援事業所(アシスト、くすの木、社協相談支援センター、ホープ(事務局))

月日	内容
4月10日	委員の構成について 次回から市内の相談支援事業所が外れ、新たに就労支援事業所 B 型(山門清光園、アシスト)が参加

出席者：みやま市福祉課、大牟田公共職業安定所、障害者就業・生活支援センターほっとかん、就労移行支援事業所・就労継続支援 A 型、B 型事業所(サンビジネス、くすの木苑、ピート、山門清光園、アシスト)、ホープ(事務局)

月日	内容
7 月 19 日	令和 5 年度活動振り返り、令和 6 年度の活動について(ホープの関わりからみえる就労状況、就労支援事業所周知活動)
10 月 18 日	構成委員の紹介(アントみやま加入) 各事業所取り組みの発表(サンビジネス、山門清光園、アシスト、ほっとかん)
1 月 24 日	各事業所取り組み発表(くすの木苑、大牟田公共職業安定所、アントみやま、みやま市福祉課)、次年度の年間計画について

<柳川市・みやま市「地域生活支援拠点等整備部会」>

月日	内容
10 月 10 日	地域生活園拠点等整備事業について これまでの経緯と課題について(今年度の課題の確認) 重点課題① 緊急受入における事業所間の理解促進について 重点課題② 専門的人材の育成・養成について 地域の体制づくり(意見交換)
2 月 27 日	地域生活支援拠点等整備事業について 重点課題① 緊急受入における事業所間の理解促進について 重点課題② 専門的人材の育成・養成について 問題提起(意見交換)

<虐待対応事業所連携会議>

月日	内容
9 月 13 日	各事業における虐待案件の共有 愛着障がいへの理解を深める講演会に関する情報共有及びディスカッション
11 月 13 日	連携事業所見学会(萌友園)、緊急受入の流れについて 緊急受入を行うにあたっての事業所連携の在り方について
1 月 29 日	連携事業所見学会(健康荘)、緊急受入の流れについて 緊急受入を行うにあたっての事業所連携の在り方について
2 月 25 日	連携事業所見学会(慈久園)、緊急受入の流れについて 緊急受入を行うにあたっての事業所連携の在り方について

<サポートこども>

出席者：市内児童通所事業所 4 か所(あとね、えーる、みどり、やまさん)、ホープ

月日	内容
6 月 20 日	みどり見学、報酬改定後の事業所の状況等について 以前の意見集約をもとに今後の取組について
9 月 19 日	あとね見学、事業所紹介のチラシ作成
11 月 22 日	多機能型事業所えーるにて開催、事業所内見学 事業所リーフレットについて、今後の活動について(次回事例検討)

1月17日	地域生活応援センターやまさんにて開催、事業所内見学 事前に各事業所内で事例検討したことを発表・意見交換
-------	--

(2) 地域生活の緩やかな応援団づくりに取り組む

- ・4月4日 民生委員・児童委員代表者12人、9月5日 区長会長がホープに来訪されホープの関わり等について懇談をした。12月26日 区長会長会でみやま市内の障がいのある人を取り巻く現状、障がい福祉サービス事業所、ホープについて説明して、地域におられる障がいのある人の手帳所持者数、どのようなサービスを利用されているかを知っていただく機会になった。民生委員・児童委員の会議(8月13日 瀬高町、10月5日 高田町、11月11日 山川町)でサポートみやま福祉ブックを配布し、新規事業所等の紹介を行い、継続的なつながりを目指した。
- ・相談者と地域の人との顔見知りの関係づくりはできなかった。ホープが関わっている方に社会福祉協議会が関係機関として加わり、区長に見守りを依頼されたので本人を見かけたときなど声をかけ、気にかけてくださっている。
- ・毎月、みやま市福祉課と相談状況等を共有しており、それ以外は医療的ケア児等への支援に関する情報交換会、ひきこもり支援者等ネットワーク会議、地域自立支援競技会、自殺ハイリスク者支援連携強化会議、精神障がい地域支援事業関係機関会議に出席し、地域の実情把握、関係機関との連携強化を目指した。

(3) 地域の相談支援体制の強化に取り組む

- ・1月21日「相談支援におけるグループスーパービジョンのあり方について考える」講師：福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センター センター長 池田顕吾氏
- ・11月20日 相談支援専門員初任者研修インターバル実習は1人の受入を行った。
- ・市内の相談支援事業所と一緒に自宅訪問や面談に同席、サービス等利用計画案の内容等について助言、様子伺いのため定期的な自宅訪問を行った。

2 顔の見えるつながりの推進

(1) 交流ひろばの活用

<Let's Go ホープの実施状況>

(人)

月日	参加者	参加延べ人数
4月26日	2	2
5月10、14、20、30日	1、4、1、0	6
6月7、14、20、27日	2、3、3、1	9
7月5、11、18、23日	2、3、4、2	11
8月2、19、27日	2、3、中止(台風接近)	5
9月6、12、20、26日	4、4、3、4	15
10月3、11、25、29日	2、3、4、1	10
11月11、28日	3、1	4
12月5、12、18、23日	1、5、4、1	11
1月15、20、29日	1、3、3	7
2月5、10、20日	1、3、2	6
3月5、13、17日	1、0、2	3
計		89

*今年度は、5月から週1回、月3～4回、午後2時から午後3時30分までカラオケ、ゲーム、体操等を楽しむ「Let's Go ホープ」を企画した。参加される方は限られているが、毎回参加をされるようになり、「参加するようになって生活や精神的に落ち着いてきたと思う」「楽しみにしている」という声をいただいた。

*引き続き、傾聴ボランティアみみずくの方に3か月に1回協力していただき5、8、11、2月に傾聴の会をした。

*相談者の絵や折り紙創作をホープ内に掲示した。

(2) つながりの構築

・涼(すずしむ)10月21日、14:00～16:00、2人参加、女子会をした。セルフアロママッサージでリラックス、好みの色でネイルケアをしてケーキとコーヒーでおしゃべりを楽しんでいた。

・暖(あたたまる)11月9日、13:00～15:00、焼き芋と飲み物を振舞う。159人に案内し、30人が参加され、利用者間の交流の機会となった。参加できなかった一人暮らしの方や外出の機会がもてない方など22人に様子伺いをかねて焼き芋と飲み物を届けた。

・ひきこもりの状態にある方やその家族に残暑お見舞いとしてスポーツ飲料、熱中症のチラシを持って自宅訪問をした。年末に一人暮らし、高齢の親とふたり暮らしの家庭など様子伺いと年末のあいさつをかねて自宅訪問(20人)や電話連絡(5人)をした。孤立を防ぐために定期的な連絡を継続した。

・毎月、誕生者にバースデイハガキを郵送した。

(3) 情報発信等を推進する

・ホームページでイベントの案内や活動等の様子、市内の新規事業所のインタビュー記事を掲載した。

各種委員会

1 法人所管委員会

<広報委員会>

- ・外部委員会 1 回(8/26)、内部委員会 4 回(6/14、11/8、1/27、2/28)開催した。
- ・ホームページに行事や日中活動の様子、求人情報等を掲載し、7 月、12 月、3 月に情報更新を行った。(詳細については、総務課に記載)
- ・広報誌「こすもす」を 9 月 1 日に発行し、近隣の小中学校や関係機関等へ配布した。
- ・令和 6 年 3 月に新パンフレットが完成し、4 月から関係機関等に持参、配布を行った。

<衛生委員会>

- ・4 月に入江産業医からの退任の申し出を受け、柳川山門医師会へ相談し、5 月から古賀産業医へ変更となった。(詳細は総務課記載)
- ・委員会を毎月(4/8、5/8、6/12、8/7、9/11、10/23、11/13、12/11、1/15、2/12、3/12)開催した。健康診断等の結果により、同日に産業医面談を 15 人実施した。(7 月は感染対応により中止)
- ・8 月に職員へ職場環境改善に向けた聞き取り調査を行い、職員 91 人からの回答を得て、意見に対する対応についての各事業所へ提案を行った。
- ・8 月にストレスチェックを実施した。高ストレス者 22 人(前年度から 5 人増加)に対し、産業医面談及びカウンセリングの提案を行った。
- ・こころの栄養日としてカウンセリング機会を年 8 回作り、23 人(内 3 人が希望者)が受けられている。希望者がいない場合は、カウンセリングを受けたことがない職員へ声かけし、9 割以上の職員が「受けて良かった」と回答されており、次年度も継続する。

<苦情解決委員会>

- ・苦情解決委員会 1 回(4/17)、相談の 3 回(7/17、10/16、1/15)開催した。第三者委員への相談者は今年度もなく、苦情受付ボックスの活用の周知を数回、交流集会でを行い、受付も「私の話を聞いてください」メモにしていたが、実際に投稿できる利用者も少なく、職員を介して 1 名の相談を受けたのみでうまく活用できなかった。
- ・毎年実施している「利用者アンケート」により利用者から多く聞かれた意見について具体的な項目(食事メニューときちんと伝える等)をしぼって職員全体で取り組み、意識できるようになってきた。
- ・日常生活支援の中で利用者からの声をひろい、今年度 5 件の苦情を受け付け、対策を講じるが、1、2 月受付の苦情についてはまだ経過を追いながら解決まで次年度持ち越しとなった。

<虐待防止委員会>

- ・外部委員会 2 回(9/2、3/23)、内部委員会を慈久園 3 回(5/28、6/28、11/13)、やまさん 3 回(7/9、1/14、2/10)した。
- ・前年度のアンケートで出た意見の中から、すぐに取り組む項目(身だしなみに関すること、羞恥心への配慮、言葉遣い)を整理し、改善策を含めて掲示した。また、口頭での説明や記録システムの連絡事項を活用し、全職員に短期間で周知できるようにした。身だしなみ(爪切り・衣類を清潔に保つ)に関しては、委員による定期的なチェックや口頭での意識付けを行うことで、自発的に行う職員が増え、改善傾向が見られた。しかし、羞恥心への配慮や言葉遣いに関しては、十分できていない職員への再周知等

課題が残った。

- ・11月に早期発見チェック、職員セルフチェック、職員の良いところの3つのアンケートを各事業所で実施した。意見に対し、対応策を検討して取り組みを行っているが、取り組みが不十分なところもあり、継続して取り組んでいる。

- ・虐待防止に関する研修を11/20 やまさん、2/27 慈久園で実施した。当日参加できなかった職員には、資料や動画視聴にて伝達研修を行った。

<表彰委員会>

- ・5月に令和6年度永年勤続表彰式(40年表彰1人、10年表彰4人、5年表彰5人)を行った。

- ・3月に外部委員会において、令和7年度永年勤続表彰の推薦者5人(20年表彰1人、10年表彰4人)を決定した。

2 慈久園所管委員会

<入所調整委員会>

- ・外部委員会 4 回(4/17、8/23、12/13、3/3)、内部委員会 4 回(4/15、8/14、12/5、2/25)実施し、3 名の方の入所案内を行った。入所前に可能な限りご本人、ご家族と対面し、関係機関との情報収集、共有を図り、入所後も定期的に生活状況等の確認を行った。
- ・入所定員割れが続いている状況のため、待機者確保に向け、関係機関への情報収集、共有を行った。施設入所の問い合わせはあるが、当園での受け入れが厳しいと判断するケースもあった。
- ・入所者の高齢化、基礎疾患等の重度化、体力面の低下などに伴い、急変される利用者も多い状況である。体調管理に努めるとともに各関係機関へ出向き、園での取り組みなど情報提供を行い、待機者確保(生活介護、短期入所などを得て施設入所へつながるよう)に努める。

<安全対策委員会>

- ・内部委員会 4 回(5/19、6/25、10/14、1/23)実施した。
- ・6 月に水害訓練を実施し、増築した 2 階多目的室、2 階会議室、廊下、職員更衣室を活用し、全利用者を避難することが可能となった。
- ・7 月、11 月に火災訓練を実施した。11 月には火元から離れた園敷地(当日は玄関)に一時避難、西側駐車場への移動する 2 次避難を想定して訓練を実施した。
- ・1~3 月に感染症訓練を実施し、感染対策時のエプロンの着脱や隔離エリアゾーンについての考え方を学習した。
- ・2 月は、防犯訓練を行った。不審者への対応や警備会社、警察などの外部との連絡、連携の訓練を行った。
- ・3 月は、地震避難訓練を行った。利用者の避難と地震後の職員の動き(点呼や設備点検)を学習した。

<給食検討委員会>

- ・給食検討委員会 2 回(7/29、1/27)、給食懇談会 10 回(4/25、5/23、6/20、8/22、9/26、10/29、11/21、12/19、2/26、3/25)実施した。委員会では、災害時、感染時の対応の確認、嗜好調査の実施及び結果について共有した。懇談会では、利用者にも出席して頂き、行事食のメニューや内容(味、季節感)について一緒に検討した。
- ・6 月水が使えない状況を想定した災害対応として昼食は備蓄食、夕食はほっともっと弁当の提供を行った。
- ・事故報告は例年と比較すると件数も減ってきており、委託会社の厨房職員の事故防止対策が講じられた結果となった。(支援調整係報告参照)
- ・厨房内の業務整理に着目し、汁物の調整を行った。ST 評価のもと、濃度の種類を減らしたが、具によってとろみが弱くなることがあり、課題が残った。

<事故防止委員会>

- ・外部委員会 2 回(9/26、3/11)、内部委員会 5 回(5/25、6/13、8/29、10/10、12/10)実施した。また、誤嚥による重大事故の検証会議(1/28)を実施し、広川市とみやま市の担当者から出席頂いた。
- ・今年度は服薬事故が続き、対策として 7 月に服薬アンケート、10 月にグループ討議を実施した。各自が服薬について再度、服薬漏れがないように意識付けを行い、実施

後は食事の服薬確認の声出し確認を積極的に行う職員が多くなった。

・12月に起きた誤嚥による重大事故後、1月に嚥下に対する職員研修を行い、研修後に嚥下状態に不安のある利用者についての食事マニュアルを作成した。作成後は食事介助前に介助者がマニュアルを確認することで安全な食事支援に努めている。

・県報告事故については、3月より昼礼にて対策実施の確認機会を設けており、来年度も継続し、事故防止に努める。(件)

	酸素	服薬	食事	受傷	転倒	転落	その他	計
ヒヤリハット報告	2	1	31	4	2	3	22	65
事故報告	1	8	15	8	6	5	34	77

<身体拘束防止委員会>

・外部委員会1回(3/12)、内部委員会1回(8/4)、毎月のゾーン内での状況確認時や外部委員会前に個別、少人数で実施した。

・毎月ゾーン内で状況確認を行った。個別のケースで使用方法や時間の短縮などを検討し、時間短縮の試行に取り組んだ。

・11月の生活介護係会議にて身体拘束の内容や事例等について研修、グループ討議を行った。日常支援場面をもとにグループ討議を行い、日常支援に活かすことができた。

・3月の身体拘束防止委員会(外部)での助言をもとに、現在の身体拘束対象者の内容や使用方法、使用時間などをもっと3要件に着目して、今後さらに協議を行う。

3 やまさん所管委員会

<地域委員会>

- ・外部委員会 1 回(7/8)、内部委員会 3 回(5/16、9/7、2/12)実施した。
- ・やまさん夏祭りを変更し、今年度から地域行事(岩田校区 納涼の夕べ)に出店、初めての参加であったが、地域の方々と交流する機会を作ることができた。
- ・例年 1 回であった高田中学校ブラスバンド部との交流機会を中学校の協力もあり、年 2 回開催することができた。次年度は、現在、ブラスバンド部のみの参加となっているため、他生徒が参加する機会を作る。
- ・次年度は、岩田校区の避難訓練実施予定であるため、参加し事業所の役割を考える。

<事故防止委員会>

- ・内部委員会 2 回(7/23、3/29)実施した
- ・忘れ物や送迎に関する事故が増えており、その都度、対策を立て対応しているが、繰り返しの事故につながっているため、対策が不十分となっている。次年度は、係内の意識を高める取り組みを行う。(件)

	食事	服薬	介護	受傷	忘れ物	送迎	その他	計
ヒヤリハット報告	0	0	3	0	44	12	15	74
事故報告	1	2	7	7	12	10	19	58

<身体拘束防止委員会>

- ・内部委員会 2 回(6/19、3/27)実施した。対象者の必要性を確認し、時間短縮できる場面について解除を行った。また、状況によって解除できるものは、委員会で協議し解除の対象とした。(人)

身体拘束の内容	車いす ベルト類	車いす テーブル	ミトン手袋	車いす介助 用ブレーキ	ハイロー チェア
生活介護	2	1	0	3	0
放課後等デイ	0	0	2	0	1

*アームカバー使用者 1 人／解除(放課後等デイ)